Matsumoto Dental University
Graduate School of Oral Medicine

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,
Nagano 399-0781, Japan

第 235 回松本歯科大学大学院セミナー

日　時: 2011 年 6 月 10 日(金) 17 時 30 分~19 時 00 分

場　所: 講義館 202 教室

演　者: 小宮山 彌太郎 氏
（ブローネマルク・オッセオインテグレイション・センター所長）

タイトル:『遠くを見据えたインプラント療法』

以前はいわゆる山師がする仕事、胡散臭いものとしていわゆる歯科界のオピニオン・リーダーの先生方から疎んぜられていたインプラント療法も、歯科治療のひとつの選択肢として避けて通ることができない時代になった。その背景には、従来のインプラント法と大きく異なり、医学的に立証されたオッセオインテグレイションに基づく治療法の存在がある。**1965** 年 **9** 月、スウェーデンの医師 **Brånemark** 教授により初めてヒトに臨床応用されてから、ちょうど **46** 年近くが経過しようとしている。その後、あたかも雨後の筍のように幾多のインプラント方法が市場に溢れているが、残念なことに、科学的な眼で見るならば好ましくないものも多く認められる。適切に加療されるならば、長年月にわたり従前の治療よりもはるかに高い予知性を備えた結果を患者に提供することができる治療法であるにもかかわらず、インプラント療法は、義歯やブリッジなどの一般的な欠損補綴と変わりのない修復法と捉える歯科医師も多いためか、それに関連したトラブルが増えつつある。

オッセオインテグレイションは生体の組織とはかけ離れた純チタンと成熟した骨組織とが、生体組織の異物排除機転のひとつである肉芽組織による被包化を示さずに、直接、接する状態を呈することから、歯根膜の存在を前提とした従前一般的な歯科治療の延長線上にあるものと考えるならば失敗してもおかしくはない。

いかにインプラントの種類が増えようとも、生体の仕組みはひとつであり、決して手を抜ける方法はないことを忘れてはならない。安易に業者あるいはそれに寄り添う講師の口車に乗ることは避けたい。患者に対して最後に責任を取らなければならないのは誰か？

略歴

小宮山 彌太郎 （こみやま やたろう）

1945 年 **5** 月 **31** 日生まれ

1971 年 東京歯科大学卒業

1976 年 東京歯科大学大学院修了

1980 年から **1983** 年 イェーテボリ大学客員研究員 ブローネマルク教授に師事

1990 年 東京歯科大学助教授

1990 年 ブローネマルク・オッセオインテグレイション・センター開設

1993 年 東京歯科大学客員教授

2006 年 東京歯科大学臨床教授

2006 年 神奈川歯科大学客員教授

2011 年 昭和大学歯学部客員教授

担当:健康増進口腔科学 准教授 八上 公利